

2021年(令和3年)度
AO 英語検定型入学試験[C日程] 問題
海外帰国生徒入学試験[C日程] 問題
国際バカロレア入学試験[C日程] 問題
小 論 文

2021年2月3日 実施

【解答上の注意】 答えは別紙解答用紙に、左横書きで書いてください。
この問題用紙の余白や裏面を下書きなどに利用してもかまいません。

《課題文》

我々の行動は他者に強く影響される。かといって外部環境の情報によって行動が完全に決定されるわけではない。

— 中略 —

人間の行為はその場の状況だけで完全に決まるわけではない。服従か抵抗かという結果は個人的要素にも依存する。したがって自由の余地は残されており、責任を負う必要が発生する。そこから自由・主体性(内因)と、外部環境による規定(外因)、それぞれの重みを探る問題意識が出てくる。

だが、この発想は初めから論理的誤りを犯している。個人的要素とは何か。生まれたばかりの赤ん坊を想像しよう。どんな環境で育つかにより、この子の性格は大きく左右される。遺伝形質も我々自身が選択した条件でなく、両親から受けた外的要素だ。生まれた時の所与に親や学校による教育が加わり、我々の人格が徐々にできる。生まれながらの遺伝形質でもなく、外界の影響でもない要因はない。偶然も外因だ。

— 中略 —

我々は結局、外来要素の沈殿物だ。私の生まれながらの形質や幼児体験が私の性格を作り行動を規定するなら、私の行為の原因は私自身に留まらず外部にすり抜ける。犯罪を犯しても、そのような遺伝形質を伝え、そのような教育をした両親が責められるべきではないか。どうして私に責任が発生するのか。もちろんこの論理は両親にも当てはまる。彼らにもまたその両親にも責任はない。この議論からわかるように、個人の肉体的・精神的性質に行動を帰しても主体的責任は導けない。

親や外界から人格を授かったとしても、他の誰でもないまさに自らの人格である以上、それに対して責任を持たねばならないという意見もある。だが、人格形成責任論は採れない。この発想は、人格により行為が決定論的に発生する事実を認めながらも、当該行為が生み出されるに至る原因としての人格を形成した自己責任を最終的根拠として問題にする。しかしこの論理は自己矛盾に陥る。行為を決定した人格を作り出した責任を問うためには、その人格形成の時点で「自由な行為者」を想定する。だが、その論拠たる「自由な行為者」も、それ以前に形成された人格に基づく以上、この論理は無限背進する。

行為の原因を各人に固有な性質に求めても責任は定立できない。問題点を明確にするために次の二つのケースを考えよう。幼児を狙う性犯罪常習者がいる。この犯人は幼少のとき父親に自分自身、性的虐待を受け、そのトラウマが原因となり子供を見ると性衝動を抑えきれない。このような病的習慣を持つ人間は社会にとって重大な脅威だから、子供を扱う職業に就かせないなど行動を制限せざるをえない。あるいは隔離し刑務所や精神病院に閉じこめる必要がある。更生が不可能と判断される場合は死刑もありうるだろう。だが、いけないと知りつつも欲望に抗しきれず犯罪に走ってしまう人間は自由だろうか。行為に対する責任が発生するのは、その行為を踏みとどまる可能性があるからだ。社会環境や個人資質が原因で他の選択肢がないならば自由意志による行為とは考えられない。社会を保護するために、このような個人に対して隔離や行動制限などの手段を取らねばならないが、そのことは彼に責任があることを意味しない。子供を見れば必ず性衝動に駆り立てられるという偏執的性向は、この行為と犯罪者との関係を必然なものとし、他の結果が生じる可能性を除外する。したがって責任は発生しない。

逆に精神の健全な男が一度だけ過ちを犯すとしよう。彼の個人資質は正常で、普段は犯罪の危険性がないし、子供と一緒にいる時に性衝動が仮に生まれても、それに対して抵抗する能力を持つ。子供とみれば必然的・自動的に犯罪行為に及ぶのではなく他の選択肢もありうる。したがってこの男は自由を有し、また自由な人間だから自らの行為に責任を負わねばならない。

したがって次のパラドクスが我々の前に立ち上がる。偏執的性犯罪常習犯は自己の行為に責任を取れない。それでも、再犯防止のため厳罰や去勢などの処置を通して行動習慣を変化させたり、社会隔離あるいは死刑などの措置が必要になる。それに対して、正常でありながら一度だけ過ちを犯した人間は、偏執的常習犯ほど危険な人物ではない。したがって罰は軽くていいし、去勢や隔離の必要もない。しかし自由に選択した行為であるから、自らの行為に対する責任が発生する。つまり個人資質を原因として犯罪行為可能性が高まるにつれて責任は逆に減少する。言い換えるならば、社会を保護する目的で科すべき正当な罰の重さは責任の重さに反比例する。

(小坂井敏晶著『増補 責任という虚構』より)

《問題》

課題文を読んで、以下の指示に従って答えなさい。

- (1) 人格により行為が決定論的に発生するとはどういうことかについて、200字以上300字以内で解答欄①に書きなさい。
- (2) 次の問いへの答えを、300字以上500字以内で解答欄②に書きなさい。

問：社会を保護する目的で科すべき正当な罰の重さは責任の重さに反比例するとはどういうことか。

2021 年(令和 3 年)度 海外帰国生徒入学試験・国際バカロレア入学試験C日程
英語での課題作文 問題

2021 年(令和 3 年)2 月 3 日

Why would you like to enter the Department of Global Studies, and how do you think this will help your future? (300 – 400 words in English)